

エコアクション21
環境活動レポート

共同グラビヤ印刷株式会社

発行日 : 2017年7月7日

修正日 : 2017年8月11日

(対象期間2016年4月～2017年3月)

目 次

	<p>1.組織の概要 3</p> <p style="padding-left: 20px;">1)事業者名および代表者名</p> <p style="padding-left: 20px;">2)所在地</p> <p style="padding-left: 20px;">3)環境管理責任者</p> <p style="padding-left: 20px;">4)事業の内容</p> <p style="padding-left: 20px;">5)事業の規模</p> <p>2.認証・登録の対象範囲 3</p> <p>3.環境方針 4</p> <p>4.今年度の主要な環境活動計画の内容 5</p> <p>5.今年度の環境目標およびそれに対する取り組み結果 6</p> <p>6.取り組み結果に対する評価 7</p> <p>7.本社以外の登録サイトごとの活動に対する評価 10</p> <p>8.教育訓練体制についての評価 10</p> <p>9.環境関連法規への違反、訴訟等の有無 10</p> <p>10.代表者による全体評価と見直し 11</p> <p>11.次年度の活動管理について 11</p> <p>12.中期計画(2017年～2021年)について 11</p> <p>13.次年度の主要な環境活動計画の内容 12</p>
---	---

1.組織の概要

(1)事業者名及び代表者名

共同グラビヤ印刷株式会社
代表取締役 八谷 順一

(2)所在地

〒496-0031 愛知県津島市埋田町5丁目100番地

(3)環境管理責任者

責任者 総務部長 高坂 誠一
連絡先 電話:0567-25-2356 FAX:0567-26-3013
事務局 業務部業務課係長 柴田 聡

(4)事業の内容

グラビヤ印刷及び包装資材販売

(5)事業の規模

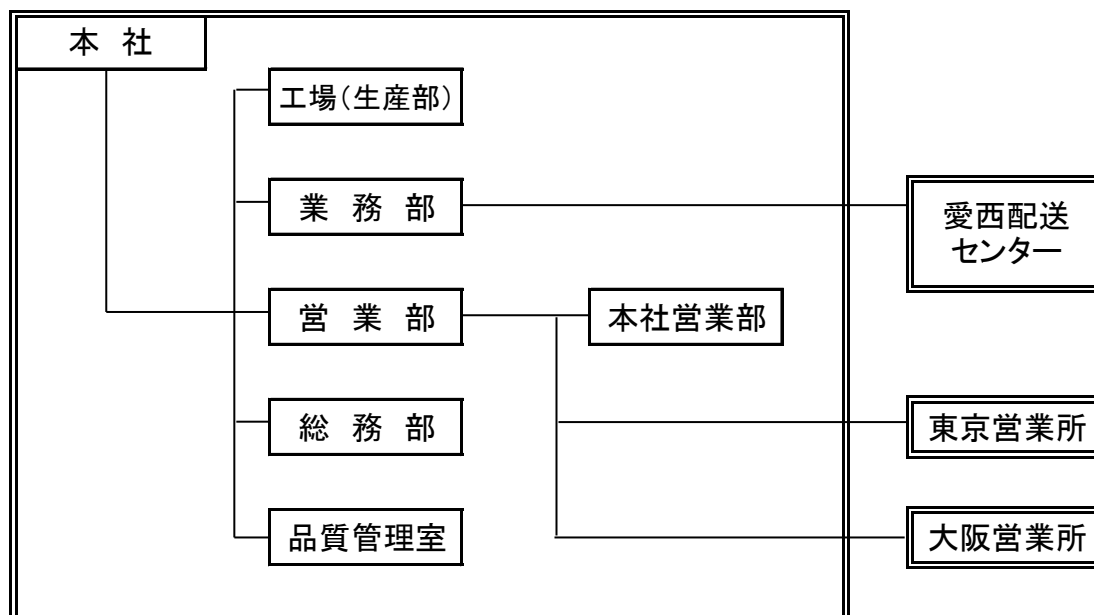
売上	11.8億円(2016.4月～2017.3月)
従業員数	48名(2017.4.1現在)
本社工場延べ床面積(駐車場合む)	2,183 平方メートル
愛西配送センター延べ床面積	1,904 平方メートル
東京営業所延べ床面積	40 平方メートル
大阪営業所延べ床面積	28 平方メートル

2.認証・登録の対象範囲

事業活動 : グラビヤ印刷及び包装資材販売

(認証・登録番号 0002785)

対象事業所 : 本社、愛西配送センター、
東京営業所、大阪営業所



二重線に囲まれた4つの部分を対象組織とする。

環 境 方 針

環境理念

共同グラビヤ印刷株式会社は、食料品関連の包装資材の生産活動を通じて環境にやさしい包装資材の提供を基本理念として、社会に貢献します。

環境汚染の予防と環境保全の継続的改善により、地球温暖化の防止と環境循環型社会の形成をめざします。

基本方針

1. 共同グラビヤ印刷株式会社に、適用される法規制、共同グラビヤ印刷株式会社が同意するその他の要求事項を順守致します。
2. 環境経営システムを運用するに当たり、以下を目標に展開いたします。
 - ①グラビア印刷の生産活動において、省エネルギーに取り組み二酸化炭素の削減に努めます。
 - ②グラビア印刷の生産活動において、廃棄物の削減・リサイクルの推進に努めます。
 - ③機械使用時等の節水により総排出量の削減に努めます。
 - ④資材調達でのグリーン購入を推進いたします。
 - ⑤環境配慮商品、サービスの提供に努めます。
 - ⑥有害化学物質の使用量の削減に努めます。
3. 本方針を全社員に周知し、環境経営システムの継続的改善を進めます。

制定日 : 2009年 9月30日

改定日 : 2016年 8月20日

共同グラビヤ印刷株式会社

代表取締役 八谷 順一

4. 今年度の主要な環境活動計画の内容

1) 二酸化炭素排出量の削減取り組み

購買電力量

- A) 不要照明の消灯の徹底、節電ステッカー貼付
- B) 冷暖房の設定温度の見直し、冷房時26°C・暖房時22°C
- C) パソコン等IT機器の使用管理の見直し
- D) 機械の使用管理の充実
- E) 生産設備稼働率の向上

ガソリン・軽油の使用量

- A) アイドリングストップの徹底(ステッカーの貼付)
- B) 低速走行の励行、急発進の禁止
- C) 車のエアコン設定温度の見直し
- D) 点検・整備の励行
- E) 納品および営業活動のルートの見直しによる、走行距離の削減

LPGの使用量

- A) 機械の使用管理の充実
- B) 生産設備稼働率の向上

2) 廃棄物排出量の削減取り組み

一般廃棄物・事業系廃棄物

- A) コピー紙の再利用の促進
- B) 紙管の回収及び再利用の促進
- C) 再生紙利用の促進

産業廃棄物

- A) 良品の不良化の防止
- B) 試刷りの適正利用

3) 水使用量の削減取り組み

- A) 節水ステッカーの貼付
- B) 手洗い等の節水の徹底
- C) 漏水チェック

4) グリーン購入の取り組み

- A) 事務用品のグリーン購入の推進
- B) 購入資材へのリサイクル材の積極的な採用
- C) 地元の業者の利用

5) 環境配慮品・サービスの取り組み

- A) 溶剤を使用しないラミネートの推進
- B) 包装資材の古紙利用の促進

6) 有害化学物質の使用量削減の取り組み

- A) 環境負荷の少ない化学物質への切り替え
- B) 有害化学物質の管理の推進
- C) インクの使用量の削減
- D) 5S活動によるインクの整理
- E) インク使用量の管理

5. 今年度の環境目標およびにそれに対する取り組み結果

		基準年度実績値 (2011/4～2012/3)	今年度目標値	今年度実績値 (2016/4～2017/3)	対目標 達成度	評価
二酸化炭素排出量 (kg-CO2)		751,313	714,419	769,744	+7.7%	×
内	電気使用量 (kWh)	877,039	834,064	893,511		
	(kg-CO2換算)(※1)	414,839	394,467	422,631	+7.1%	×
訳	LPG使用量 (kg)	83,282	79,201	89,962		
	(kg-CO2換算)	250,010	237,733	270,063	+13.6%	×
	ガソリン・軽油使用量 (L)	36,347	34,565	32,177		
(kg-CO2換算)		86,464	82,218	77,050	-6.3%	○
廃棄物等総排出量(t)(※2)		201	191	196	+2.6%	×
水使用量(m ³)		1,024	974	1,444	+48.2%	×
グリーン購入推進の取り組み		グリーン購入対象品を優先して購入することができた。				○
環境配慮型商品・ サービス推進の取り組み		当社のノンソルラミネート機の加工数量は昨年並みを維持した。 新しい材質への適用に向けてテストを推進中である。				○
有害化学物質使用量 削減の取り組み		売上の増加に対して、インキ購入額は昨年を下回ることができた。 調色時の残インクを減らす取り組みについてはやや後退。				○

※1 電気使用量から二酸化炭素排出量を算出する際に、中部電力の2012年の値 0.473を使用します。なお、東京営業所は東京電力より電力を購入していますが、全体に占める割合が低く、計算の簡略化のためすべて中部電力の値を用いて計算を行います。

※2 廃棄物総排出量＝一般廃棄物および産業廃棄物(廃プラ・ウエス・廃インキ・鉄くず)

上記の表の数値には、それぞれ以下の対象サイトの数字が合算されています

電気使用量 本社・愛西配送センター・東京営業所
 LPG使用量 本社のみ(他のサイトではLPGは不使用)
 ガソリン・軽油使用量 本社・愛西配送センター・東京営業所・大阪営業所
 (ただし、全社一体での購入のためサイトごとの数字は把握不可能)
 水使用量 本社・愛西配送センター・東京営業所
 廃棄物等総排出量 本社・愛西配送センター・東京営業所

大阪営業所については、対象サイトが住居と兼用した建物内にあり、電気・LPG・水・廃棄物の事業活動による負荷だけを取り出して計測することが困難であるため、数字による管理は行っておりませんが、これらの使用量・排出量の削減活動に取り組んでおります。

6 取り組み結果に対する評価

1) 二酸化炭素排出量

結果： 二酸化炭素の排出量は、総エネルギー使用量のCO2換算値で、前年比で2%の増加となり、目標に対しても、7.7%到達することが出来ませんでした。

評価： 内訳としては、電力使用量が目標値に対して+7.1%で、LPG使用量は目標値に対して+13.6%と達成することができなかったのに対して、ガソリン・軽油使用量は目標値に対して-6.3%ということで、前年に引き続いて目標を達成しました。

LPG

今年度は、昨年度に比べて売上高が5%の増加となりました。しかし、LPGは売り上げの伸びよりも大きい、前年比7%の増加となってしまいました。もともとLPGの使用量は、冬季(1月～3月)に、夏季(7月～9月)の倍以上になります。今年度は、例年よりも12月と1月の受注量が多かったため、冬季の稼働が高く、その影響があったものと考えられます。また、その中でも、比較的古いほうの機械に仕事が偏り、新しい効率のよい機械にうまく割り振ることができませんでした。

電気

前年比で-0.2%と、減少させることはできましたが、目標は達成できませんでした。昨年度より、「機械間の終業時間のばらつきの解消」や「時間当たりの生産実績の向上」などに取り組んでいますが、機械の故障やオペレーターの人手不足により全ての機械を同じ時間稼働させるという方向性に無理が生じてきました。「効率の良い機械にエネルギーを集中させる」方法を中心にしながら、機械のメンテナンスおよび、オペレーターの人材育成に取り組んでいきます。

ガソリン・軽油

ガソリン・軽油については、前年比で-2.5%となり、目標も達成しました。しかし冬季に入り、昨年まで行っていた「納品ルート効率化」が、お客様間の取引量のバランスが変更したため、1台単位で方向を決めて納品ルートを組むことが難しくなりました。来期以降もこの傾向は続くと考えられるので新たな対策を検討していく必要があります。

2) 廃棄物等総排出量

結果： 廃棄物排出量については、昨年比で26.7%という大幅な増加をしてしまいました。そのため、目標値に対しても、2.6%のオーバーとなり目標未達成になりました。

評価： この数量の増加の主な原因は、不良化した製品在庫をいままで保管だけしていたものを、一斉処分したことによるものです。ただし、一斉処分があった月以外の廃棄物の排出量も増加しています。その内訳として、プラスチックごみの増加が目立ちます。不良製品在庫以外のプラスチックごみとしては、製品製造上のロスや不良品が主となります。「ロス・製造不良の削減」の取り組みにより積極的に取り組むことが求められます。リサイクル可能なプラスチックごみは減少しました。試刷り用のフィルムの使用量を減らす取り組みの成果が出ています。また、紙・木くず、ウエス、段ボールなどの排出量も減りました。

3) 水使用量

結果： 水の使用量については。昨年比で-3%の減少とはなりましたが、目標に対しては+48%と達成から遠い結果となってしまいました。

評価： 昨年度愛西倉庫のトイレの故障による漏水で大幅に使用量が増えていた点については修理により解消しました。しかし、本社の冷却水の循環上の不調についてはまだ解消のめどがついていません。

4) グリーン購入の取り組み

事務用品のグリーン購入の推進

今期より、事務所内のパソコン端末が一斉に新しいものとなり、新型になった分だけ、省エネ化されました。

また、事務所用のインクジェットプリンターを購入する際に、できるだけ大型のインクタンクを持つような機種を優先して選択して、インク容器のゴミ削減となるように意識しています。

他の備品については、特にメーカーの変更等がなかったため、前年と同水準の活動になります。

購入資材にリサイクル品を積極的に使用

ウエス・段ボール・紙管は、もとよりリサイクル率の高い商品を使用しており、今年度も引き続きそれらの商品を使用しています。

地元の業者の利用

特に備品のメーカーの変更などがなかったため、昨年と同水準の活動になります。

5) 環境配慮型商品、サービスの推進の取り組み

溶剤を使用しないラミネートの推進

ノンソルベントラミネートをより多くの材質に対応させるため、接着剤のテストを昨年に引き続き行っています。しかし、機械の稼働が、受注量の増加に対して間に合わなくなり、別のラミネート手段に頼るケースが増えてきました。

ノンソルラミネート機の稼働実績は昨年並みでしたが、全体のラミネート対象品に占める割合は、73%から67%へと減少してしまいました。

包装資材の古紙利用の取り組み

段ボールについては、当社で省エネ品を購入したものを、外注依頼先の加工メーカー様に使ってもらうことで、全体として使用実績が増えています。

また、今まで製品の発送時に木製のパレットを使用していたお客様へ通いのプラパレットを用意してやりとりするようになったケースが2件増えました。これにより、お客様側でのゴミの発生の抑制につながっています。

6) 有害化学物質の使用量削減の取り組み

環境負荷の少ない化学物質への切り替え

有害化学物質の管理の推進

インキ使用量の削減および管理

今年度のインキ購入量は、前年度比で-2.8%と削減することができました。

ただし、インキの調色の際に古いインキをうまく再利用しようとすると、時間と人手が必要となりますが、当年度はそこに人員を割り振ることができませんでした。

溶剤回収機による、溶剤再利用についても、前年比-25%と大幅に実績を減らしてしまいました。今まで担当者が1名で行っていたものを、当番制にしたり、うまく工場の1日のルーチンに組み込むことで前年以上の数字となるよう取り組んでいきます。

フロンガス使用の適正化

昨年度より、空調装置を毎月1回点検し、故障による外部流出等がないか確認しております。

7. 本社以外の登録サイトごとの活動に対する評価

・愛西配送センター(常駐 0名)

電力使用量について、前年比で6%の増加となりました。

4階建てのうちの下層階によく動く製品を、動かないものを上層階に移動させる取り組みよりも、客先間の荷物のウェイトの変更が上回ったため、エレベーターの使用が多くなってしまいました。特に1階の荷物がほとんど動かなくなりました。

また、同一客先の荷物が複数階にまたがることで、ピックアップ上の時間も増加したため、その状態の解消が来年度の早急な課題となります。

水使用量については、昨年度にトイレ故障による漏水というエラーがあったため比較ができませんが、一昨年並みの低い数値となりました。

・東京営業所(所属 1名、ただし9月～2月まで所属2名の時期あり)

9月から2月までの間、本社より出向で1名が当拠点に所属していました。

そのため、従来であればお客先への営業活動に出かけている時間以外の、朝と夕方だけだったLPGや電力の使用時間が増えました。

そのため、電力は昨年比で12%の増加、LPGは昨年 1m^3 に対して4倍の 4m^3 となりました。ただし、これは一時的な増員であり、3月からはまた所属1名に戻ったため、環境負荷も昨年度並みの数字になると考えられます。

・大阪営業所(所属 1名)

ガソリン・軽油使用量、および環境にやさしい製品の推進の2つの項目のみの参加となっています。この2つとも全社あわせての評価となるため、大阪営業所の活動については、本社の活動とまとめて評価します。

8. 教育訓練体制についての評価

新人教育の中に、エコアクション活動についての授業を取り入れていますが、この新人教育について、今年度から実施記録をしっかりと残すようにしました。ただし、なかなか勉強会の予定を組むことができず、実施回数は多くありません。勉強会が始まる前に入社した若手社員にも勉強会に参加させる方針となりました。その他の社員への啓発活動について、3か月に1回のエコアクション会議(環境委員会)と同じタイミングで、啓発用のチラシを作成し、それを各部署で必ず全員に回覧し、見たことが分かるように記名してもらうようにしました。

9. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当社の環境管理に対する近隣住民からの苦情・指摘は直近3年間ありません。

「消防法」について、印刷用インキの保管設備の形態について、津島市の消防本部より指摘がありました。不適合な部分を解消するための方法を関係機関と打ち合わせました。

この後も関係機関の指導を受けながら保管設備の修繕計画について進めていきます。

その他の環境関連の法規につきましては、『廃棄物の処理及び清掃に関する法律』・『PRTR法』・『騒音規制法』・『振動規制法』・『フロン排出抑制法』などが適用対象に該当いたします。これらの法規に対し、当社で順守状況を確認致しました結果、違反はありませんでした。また、外部からの違反の指摘もありませんでした。

10. 代表者による全体評価と見直し

ここ数年の活動で、電気やLPGといった生産の増加に比例する環境負荷の削減にはハード面に手を入れないと目標を達成できない部分も出てきました。

また、生産の増加に対して人的資源の絶対数、および各社員の能力向上がまだ不十分であり、ソフト面での活動にエネルギーがうまく回せていません。

まずは、旧工場の空調機を更新することにより、エネルギーの削減を目指します。

廃棄物の排出量については、生産の増加だけが原因ではないと考えられます。

最近、製造時のミスによる不良品の廃棄が増えている。これに対して、機械のメンテナンスやオペレーターの能力向上により、事前に不良を出さない体制づくりを進めていきます。

11. 次年度の活動管理について

次年度の活動レポートについては 2018年6月30日までに作成するものとします。

12. 中期計画(2017年度～2021年度まで5ヶ年)

今年度より、中期計画の目標数値の算出方法を「売上高」をベースとし、1億円あたりの環境負荷を計算する方式となります。その中で、ガソリンの使用量は、営業活動・納品の影響がほとんどであり、水の使用量については生産の規模にかかわらず量が変わらないと考えられるため、売上を加味しないそのままの数字を使用します。今中期計画より、電力使用量の二酸化炭素排出量への換算係数は、エナリスの2015年度の実排出係数である0.331を使用します。廃棄物等総排出量については、2016年度の数値には通常時に起こりがたい要因が含まれているため、目標値として不適であると判断しました。そのため2015年の数値を目標設定の基準とし、初年度(2017年度)にその基準値の-2%から目標値をスタートさせることとします。

	二酸化炭素 総排出量 (kg-CO2)	電力使用量 (kg-CO2換算)	LPG使用量 (kg-CO2換算)	ガソリン軽油 使用量 (kg-CO2換算)	水使用量 (t)	廃棄物等 総排出量 (kg)
2016年度実績値 売上:11.85億円 (売上1億円あたり)	642,865 (54,250)	295,752 (24,958)	270,063 (22,790)	77,050	1,444	(※2015年) 151,180 (13,331)
2017年度目標値 売上1億円あたり	53,708	24,708	22,562	76,280	1,430	13,064
2018年度目標値 売上1億円あたり	53,165	24,459	22,334	75,509	1,415	12,931
2019年度目標値 売上1億円あたり	52,623	24,209	22,106	74,739	1,401	12,798
2020年度目標値 売上1億円あたり	52,080	23,960	21,878	73,968	1,386	12,664
2021年度目標値 売上1億円あたり	51,538	23,710	21,651	73,198	1,372	12,531

※電気使用量(kWh)から二酸化炭素排出量を計算するための係数は 0.331(エナリス:2015年)を使用
また、2018年度の設備投資計画に、旧工場の空調機を高効率型のものに取り替える計画を盛り込み、今年の冬に実施される運びとなっております。

13. 次年度の主要な環境活動計画の内容

1) 二酸化炭素排出量の削減取り組み

購買電力量

- A) 不要照明の消灯の徹底、節電ステッカ貼付
- B) 冷暖房の設定温度の見直し、冷房時26℃・暖房時22℃
- C) パソコン等IT機器の使用管理の見直し
- D) 機械のメンテナンス体制の充実
- E) 生産設備可働率の向上

ガソリン・軽油の使用量

- A) アイドリングストップの徹底(ステッカの貼付)
- B) 低速走行の励行、急発進の禁止
- C) 車のエアコン設定温度の見直し
- D) 点検・整備の励行
- E) 納品および営業活動のルートの見直しによる、走行距離の削減

LPGの使用量

- A) 機械のメンテナンス体制の充実
- B) 生産設備可働率の向上

2) 廃棄物排出量の削減取り組み

一般廃棄物・事業系廃棄物

- A) コピー紙の再利用の促進
- B) 紙管の回収及び再利用の促進
- C) 再生紙利用の促進

産業廃棄物

- A) 良品の不良化の防止
- B) 試刷りの適正利用
- C) ロス・製造不良の削減
- D) オペレーターの技術向上

3) 水使用量の削減取り組み

- A) 節水ステッカの貼付
- B) 手洗い等の節水の徹底
- C) 漏水チェック

4) グリーン購入の取り組み

- A) 事務用品のグリーン購入の推進
- B) 購入資材へのリサイクル材の積極的な採用
- C) 地元の業者の利用

5) 環境配慮品・サービスの取り組み

- A) 溶剤を使用しないラミネートの推進
- B) 包装資材の古紙利用の促進

6) 有害化学物質の使用量削減の取り組み

- A) 環境負荷の少ない化学物質への切り替え
- B) 有害化学物質の管理の推進
- C) インクの使用量の削減
- D) 5S活動によるインクの整理
- E) インク使用量の管理
- F) フロンガス使用の適正化
- G) 残インクの再利用量の増加